

事 務 連 絡
平成 2 8 年 7 月 1 日

各市町村教育委員会教育長 }
各 県 立 学 校 長 } 様
各 教 育 事 務 所 長 }

埼玉県教育委員会教育長

「がん教育教材」の指導案の送付について

標記の件について、別添写しのとおり平成 2 8 年 6 月 2 8 日付けで、文部科学省
初等中等教育局健康教育・食育課から事務連絡がありました。

つきましては、各学校においてこれらの資料を御活用いただき、学校におけるが
ん教育を推進いただきますよう、御指導をお願いいたします。

各市町村教育委員会におかれましては、貴管下の学校へ周知くださるよう併せて
お願いいたします。

担当： 県立学校部保健体育課
健康教育・学校安全担当 武田 直美
電話： 0 4 8 - 8 3 0 - 6 9 6 3
FAX： 0 4 8 - 8 3 0 - 4 9 7 1
Eメール： takeda.naomi@pref.saitama.lg.jp



事務連絡
平成28年6月28日

各都道府県・指定都市教育委員会学校保健主管課
各都道府県私立学校主管課 御中
附属学校を置く国立大学法人事務局

文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課

「がん教育教材」の指導案の送付について

文部科学省では、「がん対策基本法」の下で策定された「がん対策推進基本計画」に基づき、がん教育を推進しております。

これに関連し、本年4月に「がん教育教材」を送付したところですが、このたび、本教材に対応した指導案を作成しました。

については、今年度、「がんの教育総合支援事業」を受託している自治体においては、適宜、モデル校での取組で御活用いただくようお願いします。

また、それ以外の学校においても、がん教育を実施する際には、先に送付している「がん教育教材」と併せて、適宜御活用いただくようお願いします。

【本件担当】

文部科学省初等中等教育局
健康教育・食育課保健指導係
電話：03-5253-4111（内線：2918）

題材名 小学校版（道徳）

1. 主題名 自分の生命を輝かす 内容項目 3－（1）生命尊重

2. 目標

生命がかけがえのないものであることを知り、今ある命を大切にして精一杯生きようとする心情を育てる。

3. がん教育の視点

がんと向き合い、がんと共に生きる社会であることを理解し、自分も社会の一員として共に社会を築いていこうとする態度を養う。

4. 指導方針

本題材は、健康と命の大切さについて主体的に考えることができることをねらいとした内容である。1～7では、がんについて正しく理解することができることを目標としている。8と9では、1～7でがんについて正しく理解したことを通して、自他の健康と命の大切さに気づき、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度を育成する。それらを受けて、小学校版では、生命の尊さに注目して授業を行う。

特にここでは、がん患者の生活の質の向上について考える。18ページの「いのちあるかぎり、あなたに伝えたい」という資料を読み、3度のがんになっても懸命に生きて、その命を講演活動という形で伝えていこうとするAさんについて考える。それらを通して、命はかけがえのないものであることについて考えていく。

5. 展開例

時間	主な学習内容・学習活動	指導上の留意点(教材の明記)
導入 5分	1. 児童ががんについてどのような認識なのか問う。 ○「がん」とはどんな病気でしょう。 ・つらい病気 ・こわい病気 ・最近よく聞く病気 ・治ることもある病気 ・治らない病気	○今まで学んだことを通して、自分が考えたものはすべて間違っていないという立場で聞く。 ○「参考資料 小学生版」を読む。 ○日本人の2人に1人はがんになり、3人に1人ががんで亡くなっていることを知らせることによって、これからの学習課題に興味をもつ。 ○事前のがんについてのアンケートをとるなどして、児童のがんへの知識を調べておく。なお、家族にがん患者のいる児童や最近身近な人を亡くした児童がいる場合、様子を観察するなど、十分配慮したい。

テーマ：がんになったことのある人の話から、生命について考えよう。

<p>展開 40分</p>	<p>2. 資料「いのちあるかぎりあなたに伝えたい」を読む。</p> <p>①Bくんが「白血病」と言われたとき、Aさんはどんな気持ちだったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・つらい。 ・なぜうちの子なんだ。 ・かわってあげたい。 <p>②Aさん自身ががんになったとき、Aさんはどう思ったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供が大人になるまでは死ねない。 ・なんとしても生きるんだ。 ・私は死んでしまうのだろうか。 <p>③講演活動を続けているAさんをささえたものはどのようなものだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の体験を伝えたい。 ・がんに対する正しい理解をしてほしい。 ・命の大切さを感じてほしい。 	<p>○資料中のAさんの気持ちを考えられるように教師が感情をこめて読み聞かせをする。</p> <p>○自分の息子ががんになったときの、悲しくつらい気持ちを考えさせる。</p> <p>○息子ががんになったときと、自分ががんになったときの違いを考える。</p> <p>○不安と、生きる希望の葛藤を感じられるようにする。</p> <p>○がん患者だからといって、完治して活躍している方のことを考えることで、がんへの正しい理解につなげる。</p> <p>○いのちを輝かせて生きることに着目させる。</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>3. 自分との関わりでテーマについて考える。</p> <p>○命の大切さを感じたことはあるだろうか。それはどんなことだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たち自身が1日1日大切に生きる。 ・自分やほかの人の命を大切にする。 ・当たり前に行き続けていることに感謝する。 <p>4. 教師による説話を聞く。</p>	<p>○ワークシートを配付し、個人で考えを書く。その後、小グループで意見を交換し、全体で話合う。</p> <p>◆がんに負けずにかつやくされているAさんの話を通して、今ある命を大切に精一杯生きようとする心情を考えることができたか。(記述や発言)</p> <p>○しっとりした雰囲気大切にしながら、以下の観点を盛り込むなど、教師自身の体験談を語る。(観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今、がんは治る病気であること。 ・がんを早く発見することができれば、治る可能性は高くなること。 ・万が一自分がかかっても、周りの親しい人がかかっても、希望をもって前向きに考えていくこと。

1. 題材名「がんと健康」(中学校・保健体育)

2. 目標

- ・がんについて、関心をもち、学習活動に意欲的に取り組むとともに、自らの健康的な生活を実践しようとする態度を身に付けることができるようにする。
- ・がんについて、知識を活用した学習活動により、課題の解決を目指すための、思考力、判断力、表現力を身に付けることができるようにする。
- ・がんの疾病概念や予防等について、正しい基礎知識を身に付けることができるようにする。

3. 内容及び指導方針

(1)教材の位置づけ

- 1 がんとはどのような病気でしょうか？
 - ・ 1-(1)がんとは (p 2)
 - ・ 1-(2)がんの主な要因 (p 2)
- 2 我が国におけるがんの現状
 - ・ 2-(1)がんは最も大きな健康問題 (p 3)
- 3 がんの経過と様々ながんの種類
 - ・ 3-(1)がんの経過 (p 4)
- 4 がんの予防
 - ・ 4-(1)がんの原因は一つではない (p 6)
 - ・ 4-(2)望ましい生活習慣 (p 6)
 - ・ 4-(3)感染対策 (p 7)
- 5 がんの早期発見とがん検診
 - ・ 5-(1)がん検診による早期発見の重要性 (p 8)
- 6 がんの治療法
 - ・ 6-(1)がんの治療の三つの柱 (p 10)

(2)指導方針

日本人の死因として最も多いがんについて学ぶことは、中学校の内容である「個人生活における健康」を理解する上で重要である。第3学年の疾病の予防の内容において、がんを取り上げ、その要因、経過等の疾病概念、予防、検診、治療法に関する学習を通じて、生徒一人一人が、個人生活における健康に関する事柄に関心をもち、それらを科学的に理解し、適切な態度を身に付けて、行動をとることができるように指導する。そして、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育成する。

4. 評価規準

(1)単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
・がんについて、学習内容に関心をもち、課題の解決に向けた話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	・がんについて、資料等で調べたことを基に、課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明している。	・がんの疾病概念や予防について理解したことを言ったり、書き出したりしている。

(2)単元の指導と評価の計画

(※a：関心・意欲・態度 b：思考・判断 c：知識・理解)

時	学習内容	学習活動	ねらい	a	b	c	評価規準	評価方法
1	がんとがんの予防	①がんの原因にはどのようなものがあるか考える。 ②がんを予防するために今の自分ができることを発表する。	がんの特性や原因、予防についての理解を深め、自ら健康的な生活を実践しようとする意欲をもたせる。	◎		◎	①がんの原因について教材を基に意欲的に調べようとしている。 ②がんの予防について、学習した知識を、ノートに書いたり発表したりしている。	観察 観察 成果物
2	がん検診とがんの治療	③がんの早期発見と検診についての課題を、資料から読み取り判断し、発表する。 ④がんについて学習したことを振り返り、身に付けた知識を基にまとめる。	がんの早期発見の重要性について知るとともに、検診および治療についての理解を深め、自らの健康生活の実践に生かせるようにする。		◎	◎	③資料から課題を見つけたり、判断したり、考えまとめたりして、説明している。 ④がんの予防、検診、治療について理解したことを発表したり書き出したりしている。	観察 観察 成果物

5. 展開例

(第1時／2時間)

時間	主な学習内容・学習活動	教材	指導上の留意点
はじめ 10分	1. 本時の学習内容を確認する。 ・「がん」が、日本人の死因の第1位であることを確認する。 ・どのような「がん」があるか、知っているものを発表する。 2. がんとはどのような病気でしょうか？		○授業の始めに、身近な人をがんで亡くしたり身近にがん患者がいたりする生徒に対する配慮として「授業中に話を聞くのが辛くなったら、遠慮なく退室してよい。」と声をかける。その際、養護教諭等と連携をとり、スムーズに対応できるようにする。
	がんについてどのようなイメージをもっていますか。 〈予想される回答〉 ・怖い、治らない、等		○事前にアンケートを実施し、生徒の実態を把握することもできる。 ○生徒数名に発言させる。生徒の発言に対し

			て、ここでは解説等は加えない。
な か 35 分	(1)がんとは がんの仕組みについて理解する。 (2)がんの主な要因	1-(1) p 2 (図 1)	○「がん細胞」のできかた、健康な人でも「がん細胞」が毎日多数発生していること。免疫機能が「がん細胞」を死滅させている点を理解させる。
	がんの原因にはどのようなものがあると思いますか、調べてみよう。		
	○教材を基に、がんの原因についてグループごとに話し合って、まとめる。 (予想される回答) ・たばこ、お酒、食事、運動不足	1-(2) p 2 (図 2)	○調べてまとめたものを掲示して、全体で共有する。 ○これまで知らなかった原因について色分けさせ、強調する。 ◆関心・意欲・態度 がんの原因について教材を基に意欲的に調べようとしている。 (観察・グループワーク)
	3. がんの経過とさまざまながんの種類 (1)がんの経過 がんはどのように進行するのか、がん細胞が進行がんになるまでの経過について理解する。	3-(1) p 4 (図 1)	○図 1 を用いてがんの進行について説明する。進行がんとなると、命を失うこともあるので、早期がんの期間に発見することが重要であることを理解させる。
	4. 我が国におけるがんの現状 (1)がんは最も大きな健康課題 がんは日本人の死因の第 1 位であること、日本人の 2 人に 1 人がかかり、3 人に 1 人が亡くなっていることを知る。	2-(1) p 3 (図 1)	○図 1 を参照し、がんにかかる人が増え続けていることを補足する。
	5. がんの予防 (1)がんの原因は一つではない がんの原因について理解する。	4-(1) p 6	○がんにかかる原因は様々であることについて資料を用いて説明するとともに、次に学習する健康的な生活習慣を実践しようとする意欲を持たせる。
	(2)望ましい生活習慣 下記の 5 つの生活習慣を実践すると、がんになるリスクが低くなることを理解する。 ①たばこを吸わない ②飲酒をしない ③バランスの良い食事をとる	4-(2) p 6 (図 1)	○①～⑤の生活習慣が、がんになるリスクとどのように関係しているのか、資料の内容を用いて具体的に説明する。

	<p>④積極的に身体活動をする</p> <p>⑤適正体重を維持する</p> <p>(3)感染対策</p> <p>胃がんや肝がん、子宮頸がんのように、ウイルスや細菌等の感染が原因で発生するがんがあることを知る。</p>	4-(3) p 7	○感染検査を受けることが望ましいことを説明する。
まとめ 5分	<p>がんを予防するために、今の自分にできること、大人になってからできることを考えよう。</p>		
	<p>○がんを予防するために、今の自分にできること、大人になってからできることをノートにまとめる。</p> <p>〈予想される回答〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たばこを吸わない、お酒を飲みすぎない、野菜を食べる、運動する 		<p>○考えたことをノートに書かせ、生徒数名に発表させる。</p> <p>◆知識・理解</p> <p>がんの予防について、学習した知識をもとに、自らの考えをノートに書いたり発表したりしようとしている。</p> <p>(観察、ノート)</p> <p>○がん予防のために必要な事を振り返るとともに、自ら健康的な生活を実践しようとする意欲をもたせる。</p>

(第2時／2時間)

時間	主な学習内容・学習活動	教材	指導上の留意点
はじめ 5分	<p>1. 前時の学習内容について振り返る。</p> <p>2. 本時の学習内容を確認する。</p>		<p>○第1時と同様に、身近な人をがんで亡くしている生徒や、身近にがん患者がいる生徒に対する配慮をしながら授業を進める。</p> <p>○本時の学習内容について、がん経験者が直った例などを挙げ、検診と治療がポイントになることを伝える。</p>
なか 35分	<p>3. がんの早期発見とがん検診</p>		
	<p>あなたの家の人は、がん検診を受けていますか。</p>		
	<p>①受けている</p> <p>②受けていない</p> <p>③知らない</p>		○そう考えた理由などを発言させ、検診の意義について考えさせる。
	<p>図1、図2およびp4図1を見て、わたしたちが気をつけるべき点を、話し合ってみよう。</p>		
	<p>○図1、2およびp4の図1を見て、がんにならないためにはどのようにしたらよいか、気をつける点について、グループごとに話し合ってみよう。</p>	<p>p 8 (図1) (図2) p 4</p>	<p>◆思考・判断</p> <p>がんの早期発見の重要性と早期発見のためのがん検診について、資料から課題を見つかったり、判断したり、考えまとめたりし</p>

	<p>〈予想される回答〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早く見つけた方がよい、検査を受けたほうがよい、早く見つけたら治りやすい、大人になったらがん検診を受けた方がよい <p>(1)がん検診による早期発見の重要性</p> <p>がんは、進行すればするほど治癒率が低くなるので、早期に発見するために定期的ながん検診を受ける必要があることを知る。</p> <p>我が国で行われている、がん検診について知る。</p> <p>4. がんの治療法</p>	<p>(図1)</p> <p>5-(1) p 8</p>	<p>て、説明している。 (観察・グループワーク)</p> <p>○図1を参照し、早期発見が大切であることを理解させる。また、がんは、症状がないまま進行する病気であるので、症状がなくても定期的に検診を受ける必要があることを理解させる。</p> <p>○図2を参照し、国が推奨しているがん検診について理解させるとともに、生徒が該当年齢になったら、がん検診を受けようという意識をもたせる。</p>
<p>がんの治療について知っていることを挙げてみよう。</p>			
	<p>〈予想される回答〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手術する、抗がん剤、髪の毛が抜ける <p>(1)がんの治療の三つの柱</p> <p>がんの治療には下記の3つと緩和ケアがあることを知る。</p> <p>①手術治療 ②放射線治療 ③薬物治療</p>	<p>6-(1) p 10 (図1)</p>	<p>○生徒数名に発言させる。</p> <p>○①～③の治療法がどのようなものであるか、図1および資料を用いて説明する。</p> <p>○がんの治療は、3つの治療法を、単独、あるいは組み合わせで行うことを理解させる。</p> <p>○p 12の緩和ケアについても触れ、患者や家族の「体と心の痛み」を和らげる支援をしていることを説明する。</p>
<p>これだけ治療法が確立しているのに、なぜ多くの日本人ががんになり、死亡しているのか考えてみよう。</p>			
	<p>〈予想される回答〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検査を受けないから、最初は自覚症状がないから、病院に行かないから、高齢化しているから 		<p>○生徒数名に発言させる。</p> <p>○これまでの知識を活用して考えられるように指導する。</p>
<p>まとめ 10</p>	<p>5. がんについて学習したことを振り返る。</p> <p>これまで学習したことを基に、今の自分にできること、大人になってできることを考えよう。</p>		

分	○がんについて学習したことを振り返りながら、がんを予防するためにできること（検診も含めて）を今できることと大人になってできることに分け、ワークシートにまとめる。	○ワークシートを活用し、これまでに学んだ点について振り返り、知識を習得することができたか確認をする。 ◆知識・理解 がんの予防、検診、治療について理解したことを発言したり、書き出したりしている。 (観察・ワークシート)
---	--	--

1. 題材名「9 がん患者への理解と共生」(中学校・特別活動)

2. 題材について

(1) 題材設定の理由

本題材では、がん患者への理解を深めるとともに、がん患者との共生を図ることができる生徒の育成を目ざしている。特に本時では、がん患者の手記を教材として用いることで、がん患者やその家族に対する理解、そして周囲から支え共生することの大切さに気付くよう心掛けた。そして終末では、学級における話し合い活動を踏まえて自らの行動を意思決定し、表明する機会を設定する。

(2) 報告書の内容の位置づけ

ケ がん患者への理解と共生

がん患者は増加しているが、生存率も高まり、治る人、社会に復帰する人、病気を抱えながらも自分らしく生きる人が増えてきている。そのような人たちが、社会生活を行って行く中で、がん患者への偏見をなくし、お互いに支え合い、共に暮らしていくことが大切である。

3. 指導のねらい

- ・がん患者にかかわる諸問題に関心を持ち、互いに支え合おうとすることができるようにする。
- ・社会の一員としての自覚と責任を認識し、がん患者に対する画一的な見方をなくすことができるよう、また、がん患者と共生することができるようにする。
- ・がん患者の悩みに気づき、望ましいかかわり方について理解することができるようにする。

4. 展開例

時間	学習活動	指導上の留意点(◆評価)
導入 5分	<p>1. 親のがんが、その子供の生活に及ぼす影響について予想する。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・治療費などがかさみ、経済的な面で苦しくなるのではないだろうか。 ・親の看病で、精神的にも肉体的にも大変になるのではないだろうか。 ・子どもが親を支えるのは難しいのではないだろうか。 	<p>○身近な人をがんで亡くした生徒がいる場合、様子を観察するなど、十分配慮する。</p> <p>○資料 P. 14 (1) を参照する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者の子供の総数は約 8 万 7 千人に上る。 ・がんを患うと様々な生活上の支障が出る。 <p>◆【関心・意欲・態度】</p> <p>がん患者に関する諸問題に関心をもつことができる。(発言)</p> <p>○がん患者やその家族を支えることの大切さの上に立ち、望ましい関わり方について考えることを確認する。</p>
<p>目標：がん患者やその家族との望ましい関わり方について考えよう。</p>		
<p>発問：がん患者やその家族は、周りの人たちに対してどのように接してほしいと望んでいると思いますか。</p>		
	<p>2. がん患者やその家族が望む接し方について、各自で予想し、小グループで話し合う。</p> <p>〈予想される反応〉</p>	<p>○グループを形成し、話し合い活動に取り組むよう指示する。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・がんのことについては、一切触れないでほしいと思っているのではないだろうか。 ・常に気に掛けてほしいと感じているのではないだろうか。 	<p>○小グループで話合われた内容を発表するよう促す。</p>
	<p>3.「患者手記」を読み、がん患者やその家族が望んでいるかかわり方を理解する。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何でもない話をして、一緒に笑って、共に過ごすことが大切なのだと感じた。 ・ふだん通りの対応をすることが望ましいことであると気付いた。 	<p>○資料 P. 14 (2) の「患者手記」を提示する。</p> <p>○「患者手記」を読んだ感想を数名の生徒に発表するよう促す。</p>
<p>展開 40分</p>	<p>発問：「がんになって悪いことばかりではなかった」という言葉を聞いて、あなたはどのようなことを考えましたか。</p>	
	<p>4.資料を読み、教師の発問を受け、自らの考えを発表する。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜそのような思いに至ったのだろうか。 ・がんはとてつらいことで大変なのではないのだろうか。 	<p>○資料 P. 15 の前半部を提示する。</p> <p>○数名の生徒に発表するよう促す。</p>
	<p>5.なぜ、「がんになって悪いことばかりではなかった」と言えたのかを考える。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前向きな気持ちになれる出来事があったからではないか。 ・周りが励ましてくれたからではないか。 	<p>○数名の生徒に発表するよう促す。</p>
	<p>6.資料の続きを読み、がん患者の思いに共感する。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者が周囲から愛され、大切にされていると実感できるよう配慮することが必要なのだ。 ・がん患者と周囲の人が、互いに愛し、大切に思っていることが根幹となっているようだ。 ・がん患者に対し、家族や友人は実際にどのように振る舞えばよいのだろうか。 	<p>○資料 P. 15 の後半部を提示し説明する。</p> <p>◆【知識・理解】</p> <p>互いに支え合いともに暮らしていくことの大切さを理解することができる。(発言)</p> <p>○もし、実際に家族や友人ががん患者になった際、どのようなかかわり方をすることが望ましいかを想起するよう促す。</p>

発問：もし、がん患者を支える家族や友人の立場になったら、どのようにかかわることが望ましいか考えよう。

7.小グループを構成し、各々の意見を交し合った後、学級全体で共有する。

〈予想される反応〉

- ・がん患者とのコミュニケーションを丁寧にとり、相手の思いや考えを理解した上で対応する。
- ・かえってがん患者が気をつかわぬよう、ふだん通りの振る舞いを心がけるようにする。

- 多様な意見を聞くことができるよう配慮する。
- 出てきた意見を整理しつつ、自分の身の回りのがん患者をはじめ様々ながん患者との関わりについても想起することができるよう促す。

8.学級での話し合い活動を踏まえ、7.について改めて考え、具体的に自分が行うことを、自己決定する。

〈予想される反応〉

- ・家族や友人の考えを丁寧に聞き、相手の思いに即した振る舞いをする。
- ・家族や友人のことを察し、出来る限りの心身の支援を行う。

- 自己決定したことを学級活動カードへの記入を促す。

◆【思考・判断・実践】

がん患者を支える家族や友人として、自分の行動を選択し、自己決定している。(記述)

9.教師の話聞く。

- 小グループや学級全体での話し合い活動自体が、社会において互いを支え合う基盤となっていることを示唆する。
- がん患者の思いは、時と場合によって変化することもあるので、そのことについても受け止めておくことが必要であることを伝える。

ま
と
め
5
分

1. 題材名「がんと健康」(高等学校・保健体育)

2. 目標

- ・「がん」について、関心をもち、学習活動にすすんで取り組もうとすることができるようにする。
- ・「がん」について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、総合的に考え、判断し、それらを表すことができるようにする。
- ・「がん」について、課題の解決に役立つ基礎的な事項及びそれらと生活や社会のかかわりを理解することができるようにする。

3. 内容及び指導方針

(1)教材の位置づけ

本主題は、1～8を発展させた内容である。

「がん」の基礎的な内容を理解するだけでなく、一次予防(生活習慣の改善等)、二次予防(がん検診等)、三次予防(治療や緩和ケア等)といった段階に応じた個人の取組に役立てるための理解も必要である。また、健康と命の大切さやライフステージごとのがんに関する課題に対して、適切な思考・判断を行い、自らの健康管理や健康的な生活行動の選択ができるようにすることも視野に入れて教材を考えることが重要である。

(2)指導方針

小学校及び中学校での学習を踏まえて「がん」について正しく理解することを通して、自我の確立とともに個人にかかわる事柄のみでなく社会的な事象に対する興味・関心が広がり、自ら考え判断する能力なども身に付きつつあるという発達の段階を考慮する。その上で、個人生活や社会生活における「がん」に関する事柄に興味・関心を持ち、健康と命の大切さについて主体的に考えるとともに、科学的に思考・判断し、総合的にとらえることができるようにする。

4. 評価規準

ア 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
・がんについて、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	・がんについて、資料等で調べたことを基に、課題を見付けたり、整理したりするなどして、まとめた考えを説明している。	・がんについて正しく理解することができるようにすること、健康と命の大切さについて主体的にかんがえることができるようにすることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。

イ 単元の指導と評価の計画

※ a: 関心・意欲・態度 b: 思考・判断 c: 知識・理解

時	学習内容	学習活動	ねらい	a	b	c	評価規準	評価方法
1	がんの種類と特徴について	○がんの種類と特徴について資料等で調べる。 調べ学習 ○がんの予防について、資料等で調べたことを基に課題を見付けたり整理したりして発表する。	○がんには様々な種類があり、それぞれのがんの特徴を知ること、がんの予防を考える上で重要なことを理解できるようにする。		◎	◎	①「がん」の特徴について、資料からデータを読み取って分析し、筋道を立てて説明している。(思考・判断) ①「がん」の予防について正しく理解するとともに、健康と命の大切さについて理解したことを発言したり、書き出したりしている。(知識・理解)	観察成果物 観察成果物

2	<p>がんと共生する社会づくり</p> <p>○がん検診について、課題の解決に向けての話合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。</p> <p>ディスカッション</p> <p>○がんと共生する社会づくりについて、発表を聴き、ワークシートにまとめ、理解する。</p>	<p>○がんと共生する社会づくりに必要なことを、理解できるようにする。</p>	◎	◎	<p>②がん検診についての知識を身に付け、課題解決に向けての話合いなどの学習活動に意欲的に取り組むことができるようにする。</p> <p>(関心・意欲・態度)</p> <p>◎ ①がんと共生する社会づくりに必要なことについて、理解したことを発言したり記述したりしている。</p> <p>(知識・理解)</p>	<p>観察</p> <p>観察成果物</p>
---	---	---	---	---	--	------------------------

5. 展開例

(2時間扱いの1時間目)

	主な学習内容・学習活動	教材	指導上の留意点(教材の明記)
はじめ 10分	<p>1. 本時の学習内容を確認する。</p> <p>・「がん」は、日本人の死因の第一位であること、「がん」には、様々な種類があることを確認する。</p>	<p>P 3</p> <p>図 1</p> <p>表 1</p>	<p>○本時の学習内容へ興味・関心をもたせる。</p> <p>○図 1、表 1 を提示する。</p> <p>○日本人の 2 人に 1 人は、一生のうちに何らかの「がん」にかかると推定されていることを確認する。</p>
	<p>発問：日本人の死亡原因の第 1 位である「がん」には様々な種類があります。「がん」にはどのようなものがあるか、思いつくものをあげてみよう。</p>		
	<p>・「がん」の種類を、挙手で発表する。</p> <p>〈予想される回答〉</p> <p>・肺、胃、食道、大腸、等</p>	<p>P 4</p>	<p>○黒板に、人体イラストを掲示する。</p> <p>○思いつくままに発表してよいことを伝える。</p> <p>○発表された種類を、○で囲む。</p> <p>○「がん」は、発生する臓器等から名称が決められているが、白血病など「がん」という名称が用いられていない「がん」もあることを補足する。</p>
なか 35分	<p>発問：主な「がん」の特徴と、罹患数・死亡数の関係から、それぞれの「がん」の特徴について、話し合おう。</p>		
	<p>2. 提示された資料をもとに、それぞれの「がん」の特徴について、ワークシートにまとめる。</p> <p>・資料から読み取ったことを個人ワークシートに記入する。</p> <p>・個人ワークシートを持ち寄って、グループで話し合い、発表する。</p> <p>〈予想される回答〉</p> <p>・乳がんの罹患数と比較すると、死亡数が低下しているのは、自己チェックで早期発見しやすいから。</p>	<p>P 5</p> <p>表 1</p> <p>表 2</p> <p>図 2</p>	<p>○資料（表 1、2、図 2）を提示する。</p> <p>○罹患数と死亡数の関係に着目し、それぞれの「がん」の特徴を参考に考察することを伝え、難しい生徒には、着目する資料を指し示しながら、特徴に気付くよう助言する。</p> <p>○「がん」の特徴について、それぞれの資料から読み取ったことを比較したり、関連付けたりするなどして、分析した結果を説明するよう伝える。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・膵臓がんは罹患数と比較すると死亡数が高いので、膵臓がんは、治りにくい。 ・罹患数、死亡数ともに上位を占めるのは、生活習慣が原因で発症する肺がん、大腸がんである。等 ・他のグループの発表等を聞いて、気付いたことをワークシートにまとめる。 		<p>◆思考・判断</p> <p>「がん」の特徴について、資料からデータを読み取って分析し、筋道を立てて説明している。(観察・ワークシート)</p> <p>○多くの「がん」は早期に発見すれば約9割が治ることを押さえる。</p>
<p>発問： 「がん」を減らす方策について、様々な視点から考えてみよう。</p>			
	<p>3.「がん」を減らす方策について、様々な視点から、グループごとに話し合っ て、ワークシートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人ワークシートに考えたことを記入する。 ・個人ワークシートを持ち寄って、グループで話し合い、意見を発表する。 <p>〈予想される回答〉</p> <p>(健康的な生活)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・禁煙、節酒、運動、食生活、適正体重、睡眠、休養 等 <p>(検診)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡単で正確な検診制度 <p>(医療環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「がん」を治す薬の開発 ・「がん」にならない薬の開発 等 <p>・様々な健康情報が氾濫する中、正しい情報を選択していく力を身につけていくことが必要であることを確認する。</p>	<p>P 6</p> <p>P 6 図 1</p> <p>P 7</p>	<p>○「がん」の原因は、生活習慣だけでなく、細菌ウイルス感染などがあり、特に日本では原因の上位に位置付いていることを補足する。</p> <p>○5つの健康習慣について確認する。(一次予防)</p> <p>○がんの感染対策は地域の保健所や医療機関で行われていることを説明する。(二次予防)</p> <p>○現在及び将来に直面する「がん」に関する課題に対して、自らの健康管理や健康的な生活行動をとるために、適切な思考・判断を行い、正しい情報を選択していくことが必要であることを説明する。</p>
<p>ま と め 5 分</p>	<p>4.本時の振り返りをワークシートにまとめる。</p> <p>・次時の学習内容を確認する</p>		<p>○ワークシートに記入することにより、本時の学習内容を確認するよう促す。</p> <p>◆知識・理解</p> <p>「がん」の予防や健康と命の大切さについて理解したことを発言したり、書き出したりしている。(ワークシートの記述)</p> <p>○机間指導しながら、まとめができない生徒へ助言し、支援する。</p>

(2時間扱いの2時間目)

	主な学習内容・学習活動		指導上の留意点(教材の明記)
はじめ 10分	<p>1. 本時の学習内容を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の振り返り：早期発見で約9割の「がん」は治るため、がん検診が推奨されていること。 	P 8	○本時の学習内容へ興味・関心をもたせる。
<p>発問： もし、あなた自身が「がん」と診断されたとしたら、そのことを、知らせて欲しいと思いますか。</p>			
	<ul style="list-style-type: none"> ・「知らせて欲しい人」と「知らせて欲しくない人」のそれぞれの立場について、グループで話し合う。 ・話し合ったことを、発表する。 <p>〈予想される回答〉</p> <p>(知らせて欲しい)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の寿命を知り、やりたいことをやりつくしたいから ・スーパードクターに手術してもらい、早く治したいから <p>(知らせて欲しくない)・怖いから</p> <p>(その他)・早期ならOKだけど 等</p>	P 8 図 1	<p>○それぞれの立場になって、考えることを伝える。</p> <p>○多くの「がん」は早期に発見すれば約9割が治ること、国は5つのがん検診を推奨していることを補足する。</p>
なか 35分	<p>2. 提示された資料をもとに、「がん」検診の受診率を高める方策について、ワークシートにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人ワークシートに考えたことを記入する。 ・個人ワークシートを持ち寄って、グループで話し合い、発表する。 <p>〈予想される回答〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・検診を受けたら、税金を安くする。 ・定期検診の項目に加える ・正しい情報（検診の有効性）を発信する ・「がん」は怖い、助からないという意識を無くしていくことが大切なのではないか ・様々な治療法があるので、早ければ早いほど、医師と相談しながら、 	P 9 図 3	<p>○図3を提示する。</p> <p>○国のがん検診の取組と「がん」検診を受けない理由に着目し、「がん」検診の受診率を向上させる方策を考察することを伝える。</p> <p>◆関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がん検診についての課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 <p>(観察・ワークシート)</p>
<p>発問： 「がん」検診の受診率を高めるためには、どうしたらよいと思いますか。</p>			

1. 題材名「9 がん患者への理解と共生」(高等学校・特別活動)

2. 題材について

(1) 題材設定の理由

本題材は、心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成に関わる内容である。日本人の2人に1人ががんになるわが国の状況において、がん患者への理解を深め、共に生きることの大切さに気付くことが重要であると考え。

また、近い将来、社会に出ていく生徒たちにとって、がん患者が働きやすい社会にするために自分の行動を自己選択・自己決定できる力をつけることが大切であると考え本題材を設定した。

(2) 報告書の内容の位置づけ

ケ がん患者への理解と共生

がん患者は増加しているが、生存率も高まり、治る人、社会に復帰する人、病気を抱えながらも自分らしく生きる人が増えてきている。そのような人たちが、社会生活を行っていく中で、がん患者への偏見をなくし、お互いに支え合い、共に暮らしていくことが大切である。

3. 指導のねらい

- ・がんの治療をしながら、日常生活を送る人が増えている。そのようながん患者が、働きやすい社会になるためには、がん患者への理解を深め、共に支え合うことが大切である。このことについて理解できるようにする。
- ・資料をもとに自分の生き方と関連づけて考え、がん患者が働きやすい社会の実現に向けた自分の行動を自己選択・自己決定できるようにする。

4. 展開例

時間	学習活動	指導上の留意点(◆評価)
導入 10分	<p>1. 働きながらがんの治療をする際にどのような苦労があるか予想する。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事をやめれば生活が苦しくなる。 ・他人事ではない。 ・これは個人の努力や身近な人の支援だけでは解決できない問題だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○最近身近な人を亡くした生徒がいる場合、様子を観察するなど、十分配慮したい。 ○日本人の2人に1人ががんになるわが国の状況等、基礎的な学習内容について振り返る。 ○がんにかかると、治療のために仕事を休まなければならない、あるいはやめざるを得ない場合があることに気付かせる。
<p>目標：がん患者を支える社会を築いていくためには、どうしたらよいか考えよう。</p>		
展開 30分	<p>2. がん患者が働きながら治療する際の課題についてグループで話し合う。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・がんになると長く入院しながら治療をすると思っていたが現実とは違う。 ・でも、治療をしながら働き続けるのは大変そう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○わが国では、がん治療は入院というより、通院が主体になりつつあるため、がんの治療をしながら、以前と同じような生活を送る人が増えていることを説明する。 ○がんの治療方法(手術療法・放射線療法・科学療法)について学習したことを振り返る。 <p>資料P10 参照</p>

	<p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・68.3%のがん患者が、仕事とがん治療を両立させるために勤務先から支援を受けることができている、予想よりも高い。 ・でも残りの31.7%の人は支援を受けることができなかった。これは問題だと思う。 ・実際「がんの治療や検査のために2週間に一度程度病院に通う必要がある場合、働き続けられる環境だと思う」と答えた人の割合は28.9%しかない。 ・これでは働き続けることはできない。 ・がん患者への理解を深め、暮らしやすい社会にしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料P14(3)から読み取れる課題をグループで話し合うよう指示する。 ○100%の人が仕事治療を両立できるように、会社の就労支援体制を整えていく必要があることを伝える。 ○周囲の人のがんに対する理解不足が誤解を生むことに気付かせる。 <p>◆【知識・理解】</p> <p>がんの治療をしながら、日常生活を送る人が増えていること、また、そのような人たちが、働きやすい社会にするためには、がん患者への理解を深め、共に支え合うことが大切であることについて理解している。(記述や発言)</p>
<p>展開 30分</p>	<p>3. 事例を読んで思ったことを発表する。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堂々と話したこの女性はすごいと思う。 ・だれでもこの女性のように話せるわけではないから、周囲が支えてあげる必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○資料P16〈ある職場でのケース〉を提示し、資料を読んで思ったことを学習カードに記述するように指示する。 ○数名の生徒に発表させる。 ○抗がん剤の副作用について補足説明する。
<p>発問：がん患者が働きやすい社会を築くためにどうしたらよいかグループで考えよう。</p>		
	<p>4. がん患者が働きやすい社会を築くためにできることを考える。</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会に出てからのことだから難しいな。 ・がんについて進んで勉強する。 ・周囲の人にも学んだことを教える。 ・「こんなことを聞いたら悪いかな」などと思わず、積極的に声をかける。 ・職場のミーティングの際、みんなで支えられるような方法を考える。 ・旅行など、がん患者の方でもできることであれば積極的に誘う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ブレインストーミングの仕方を説明する。 ①思いついた意見が積極的に発表されるように、意見に対して批判やコメントをしない。 ②他の人のアイディアに便乗するなど他の人の意見を活用する。 ③時間は2～3分程度とし、その間にグループ内でできるだけ多くの意見を出す。 ④出された意見は各自が持っている付箋に書いて模造紙に貼る。 ⑤書き出された意見はグループ内で集め、分類し小見出しを作るなどして整理する。 ○就職した自分をイメージして考えるようにアドバイスする。
<p>まとめ 10分</p>	<p>5. がん患者が働きやすい社会を築くため自分に合った方法を決め、発表する。</p> <p>【自己決定】</p> <p>〈予想される反応〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まずは、自分自身が、がんについてもっと勉強して分かったことを家族にも伝えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○決めたことを発表させる。 ○一人一人の自己決定を認め、称賛して今後への実践意欲を高める。 <p>◆【思考・判断・実践】</p> <p>がん患者が働きやすい社会を築くための自分の行動を自己選択・自己決定している。(学習カード・発言)</p>